

小・中・高等学校における道德教育に関する
大学生の意識について
——広島女学院大学の場合——

戸田 浩暢

In respect of the awareness of university students for moral education in
primary school, junior high school and senior high school –
in the case of Hiroshima Jogakuin University

Hironobu TODA

Abstract

It has been considered that the moral education shall be an important issue in Japan which needs to be improved for the Japanese education in the future. In Heisei 10 Year (Year 1998), we have carried out the survey for University students, in order to investigate the moral education which has been handled by the local authority in Hiroshima. The local authority in Hiroshima has followed the correction measures which have been taken by the Ministry of Education. We have carried out this survey to seek the awareness of students. As a result, it is clear that sufficient moral education has been provided for those students.

I はじめに

中央教育審議会は、平成20年1月に「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」答申を行った。その中の、「5. 学習指導要領改訂の基本的な考え方」の「(1) 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂」で、「具体的には、教育基本法第2条に規定された教育の目標において、今後の教育において重視すべき理念として、従来から規定されていた個人の価値の尊重、正義と責任などに加え、新たに、公共の精神、生命や自然を尊重する態度、伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」¹⁾ ことなどが規定されたとして、道德教育を充実させ、道德の教育内容を改善する必要があるとしている。また、「(7) 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実」において、道德教育の充実・改善の観点として、「子どもたちに、基本的な生活習慣

を確立させるとともに、社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を、発達の段階に応じた指導や体験を通して、確実に身に付けさせることが重要である。その際、人間としての尊厳、自他の生命の尊重や倫理観などの道徳性を養い、それを基盤として、民主主義社会における法やルールの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることが大切である。』²⁾ ということを示している。

このように、道徳教育に関しては、「学習指導要領改訂の基本的な考え方」で、大きく取り上げられ、また、「教育内容に関する主な改善事項」においても、「言語活動の充実」や「体験活動の充実」などととも7項目の一つにも取り上げられ、今後の日本の教育の重要課題として示されている。

これに対応して、平成20年に文部科学省から出された、『小学校学習指導要領解説 道徳編』³⁾と、『中学校学習指導要領 道徳編』⁴⁾では、「2 道徳教育改定の趣旨」の「(1) 改善の基本的な観点」として、「ア 改正教育基本法等の趣旨と道徳教育」、「イ 『生きる力』の理念の共有と道徳教育」、「ウ これからの学校の役割と道徳教育」、「学校段階における重点の明確化と道徳教育」を示し、また、「(2) 改善の基本方針」、「(3) 改善の具体的事項」で、今後の道徳教育の在り方について詳細に示された。

このように、道徳教育は、今後の日本の教育において改善すべき重要な課題として考えられている。

そこで、平成10年に文部省からは正指導を受けた広島県において取り組まれてきたここ10年余りの道徳教育が、児童生徒に対してどのような効果を及ぼしているのかについて、大学生にアンケートをとり、意識調査を行う。

Ⅱ 問題の所在

広島県教育委員会に対して、平成10年5月、文部省から全国的に異例である是正指導がなされた。広島県教育の学校管理運営及び教育指導の両面において不適切な実態があり、これ以降、広島県教育委員会は、不適正な実態がある学校については是正を現在も継続して実施している。

文部省の是正指導⁵⁾は、教育内容関係が7項目、学校管理運営関係が6項目、計13項目に及んでいる。道徳教育に関しても、「道徳の時間の名称と指導内容」について指導がなされている。

広島県教育委員会は、文部科学省に提出した「是正指導報告書」の「平成13年度当初まとめ」⁶⁾に、「平成12年度取組みにおける成果」として道徳教育に関して、次の3点をあげている。

①不適正な名称については是正②適正実施校が増加③学習指導要領に基づいた学習内容への改善。また、残された課題として、次の3点をあげている。①標準授業時数の確保②全ての内容

項目についての指導③学習指導要領に逸脱するおそれのある学習内容。

この「是正指導報告書」に対する文部科学省からの指導事項（平成13年6月21日）の中で、道德教育に関しては、「学習内容等の教育活動について、是正指導を継続し、内容面の定着と充実を図ること」⁷⁾をあげている。

平成22年度においても、広島県教育委員会は、「知・徳・体」の基礎・基本の徹底をかかげ、『広島県教育資料』の中で、「道德教育の充実」を項目としてあげて、「学校は、子どもたちの豊かな人格を形成していくとともに、国家・社会の形成者として必要な資質を培う場である。しかし、現在、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、子どもたちの心と体の状況にかかわる課題は少なくない。学校における道德教育は、それらへの対応をいかに行うかが大きな課題となる。道德教育を進めるに当たっては、推進体制を充実し、教師と子ども及び子ども相互の人間関係を深めるとともに、子どもが道德的価値の自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな体験を通して子どもの内面に根ざした道德性を育成することが求められている。」⁸⁾としている。

このような広島県教育委員会の取り組みが、大学生の道德教育に関する意識を調査することで、現在の大学生にどのような影響を及ぼしているかを明らかにしていきたい。

Ⅲ 研究の目的と方法

本研究の目的は、広島県の小学校・中学校・高等学校で実施されてきた道德教育が、現在大学生になっている1回生と3回生にどのような意識を育んでいるのかを、平成20年に実施したアンケートの分析をもとに明らかにすることである。また、1回生と3回生の意識の差を比較することにより、その原因と考えられる広島県教育委員会に対する文部省の是正指導の影響について考察したい。なお、アンケートに関して、3年生は、稿者の担当科目である「道德教育の研究」の受講者76人に対し、平成20年1月23日に実施した。1年生は、稿者の担当科目である「教職論」の受講者209人に対し、平成20年2月14日に実施した。

研究の方法としては、次の表に示した、「高等学校までの道德教育」に関する質問と、「道德的価値について」の質問のアンケート（4段階評価—A：とてもそう思う、B：少しそう思う、C：あまりそう思わない、D：まったくそう思わない—）及び自由記述の質問を実施し、得られたデータを分析していく。

なお、平成10年の時、1回生は小学校4年生であり、3回生は小学校6年生である。

Ⅳ アンケートの分析

ここでは、表1と表2に関するアンケートの回答を1回生と3回生とで分けて表し、分析を行う。

表1 道徳教育に関する意識調査アンケート項目

高等学校までの道徳教育	
1	高等学校までの道徳教育は、自分の生き方のためになった。
2	私は道徳の時間等で、道徳的価値にかかわる考えが相互に作用し合うことにより、道徳的価値の自覚が深まったと思う。
3	私は道徳の時間等で体験を生かした学習をすることが楽しく、充実していたと思っている。
4	高等学校までの教師の生きる姿勢は、自分の生き方に影響を与えていると思う。
5	高等学校までの学校の環境（景観・樹木・美化・掲示等）は、生徒の心を励ましたり、温めたり、自らを見つめさせたり、知的好奇心を喚起させたりするものになっていた。
道徳的価値について	
6	私は道徳的価値（人間としてのよさ）について理解しようとしている。
7	私は自分の生き方とのかかわりで道徳的価値（人間としてのよさ）をとらえようとしている。
8	私は道徳的価値（人間としてのよさ）を自分なりに発展させようとしている。
9	私は自分の感じ方・考え方を仲間のそれと対比しながら、自分の考えを明確にしようとしている（対話―「相互作用」を大切にしている）。
10	私は人間として生きるプライドや人間の尊厳性を自覚している。
11	私はお互いの考えや気持ちを伝え合う力が身に付いていると思う。
12	私は生活上における問題を言葉で解決する力が身に付いていると思う。

表2 道徳教育に関する自由記述

A	これまで、小学校や中学校でどのような道徳教育（とりわけ道徳授業）を受けてきましたか。
B	Aのことを、自分の生き方との関わりで、どのように受け止め（評価し）ていますか。

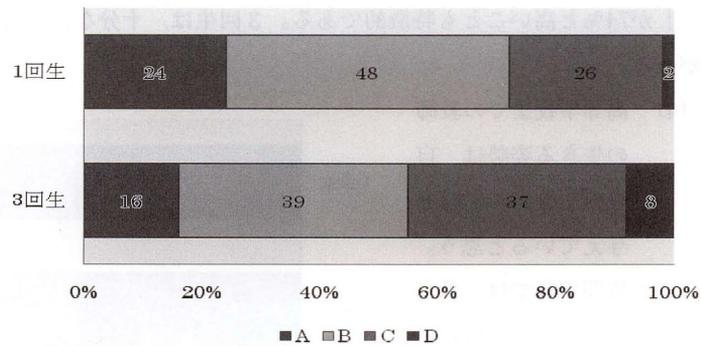
1 記号選択の学年別回答割合の比較と考察

道徳教育に関する意識調査アンケートの12項目に関して、それぞれをみていきたい。

(1) 高等学校までの道徳教育は、自分の生き方のためになった。

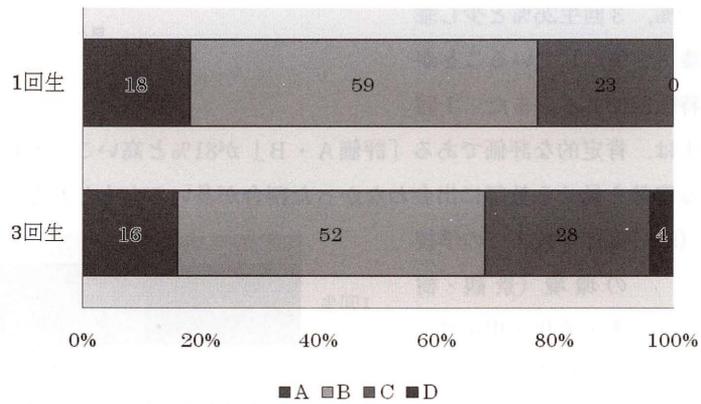
この質問項目では、否定的な評価である「評価C・D」の合計が、1回生28%、3回生45%と大きく乖離（17%）していることが特徴的である。また、1回生は、肯定的な評価である「評

価 A・B」が72%と高いことも特徴的である。3回生は、1回生に比べ、十分な道德教育を受けていなかった可能性がある。



(2) 私は道德の時間等で、道德的価値にかかわる考えが相互に作用し合うことにより、道德的価値の自覚が深まったと思う。

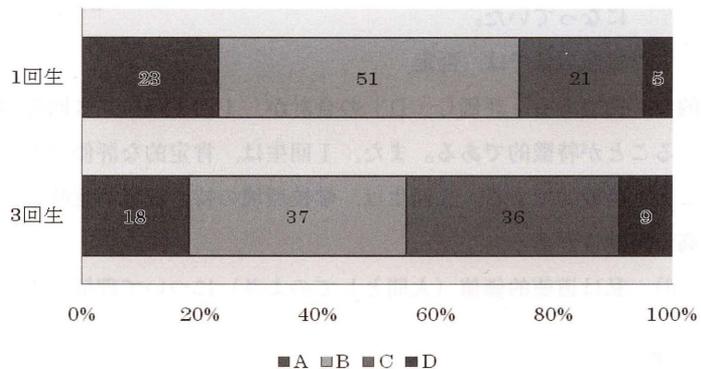
この質問項目では、否定的な評価である「評価 C・D」の合計が、1回生 23%、3回生 32%と少し乖離(9%)していることが特徴的である。



また、1回生は、肯定的な評価である「評価 A・B」が77%と高いことも特徴的である。3回生は、1回生に比べ、十分な道德教育を受けていなかった可能性がある。

(3) 私は道德の時間等で体験を生かした学習をすることが楽しく、充実していたと思っている。

この質問項目では、否定的な評価である「評価 C・D」の合計が、1回生 26%、3回生 45%と大きく乖離(19%)していることが特徴的である。



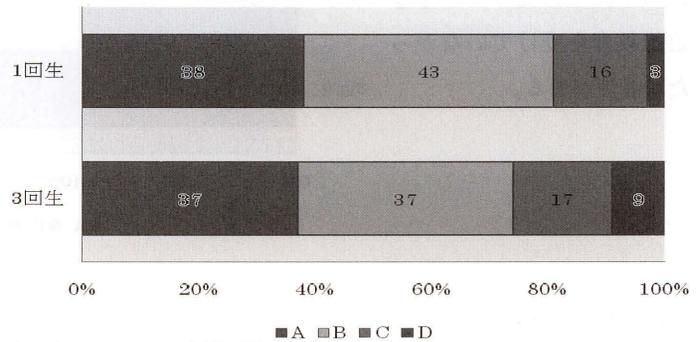
また、1回生は、肯定的な評価である「評価 A・

B」が74%と高いことも特徴的である。3回生は、十分な道徳教育を受けていなかった可能性がある。

- (4) 高等学校までの教師の生きる姿勢は、自分の生き方に影響を与えていると思う。

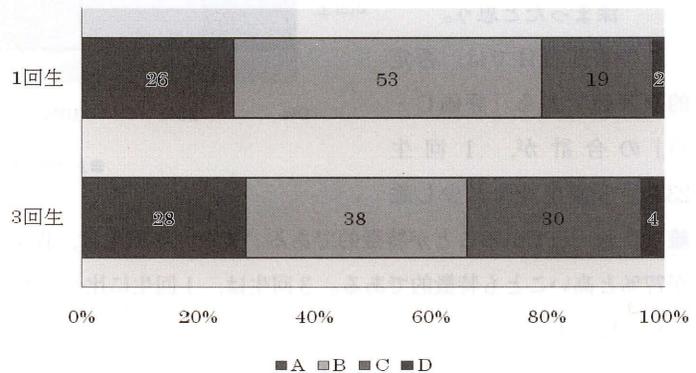
この質問項目では、否定的な評価である「評価C・D」の合計が、1回生19%、3回生26%と少し乖離(7%)していることが特徴的である。また、1回

生は、肯定的な評価である「評価A・B」が81%と高いことも特徴的である。3回生は、生きる姿勢を見せる教師に出会わなかった割合が多いのかもしれない。



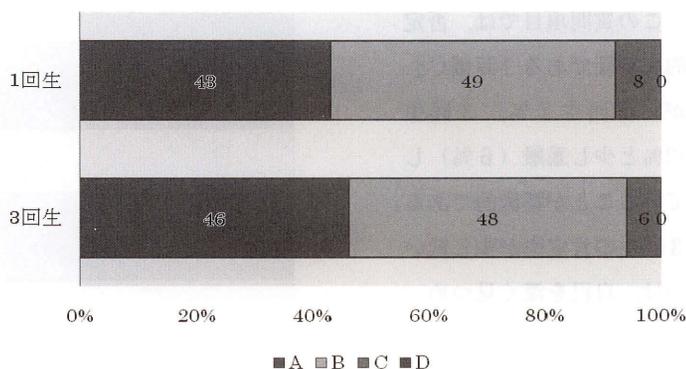
- (5) 高等学校までの学校の環境(景観・樹木・美化・掲示等)は、生徒の心を励ましたり、温めたり、自らを見つめさせたり、知的好奇心を喚起させたりするものになっていた。

この質問項目では、否定的な評価である「評価C・D」の合計が、1回生21%、3回生34%と大きく乖離(15%)していることが特徴的である。また、1回生は、肯定的な評価である「評価A・B」が79%と高いことも特徴的である。3回生は、学校環境の持つ教育的意味について教えられていない割合が高い可能性がある。



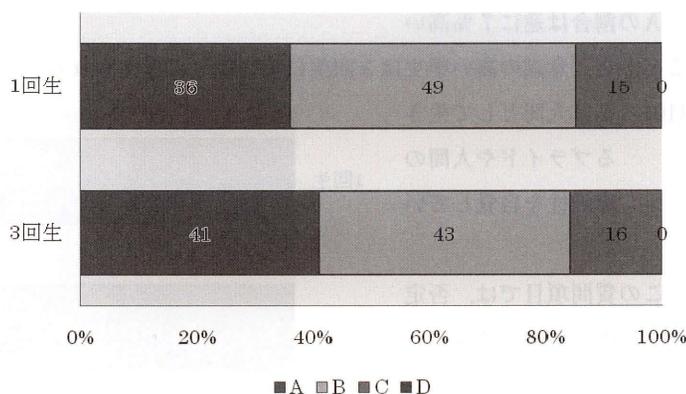
- (6) 私は道徳的価値(人間としてのよさ)について理解しようとしている。

この質問項目では、否定的な評価である「評価C」が、1回生8%、3回生6%と差がなく(2%), 肯定的評価である「評価A・B」が、1回生92%、3回生94%と、ともに高い割合になっている。



(7) 私は自分の生き方とのかかわりで道徳的価値（人間としてのよさ）をとらえようとしている。

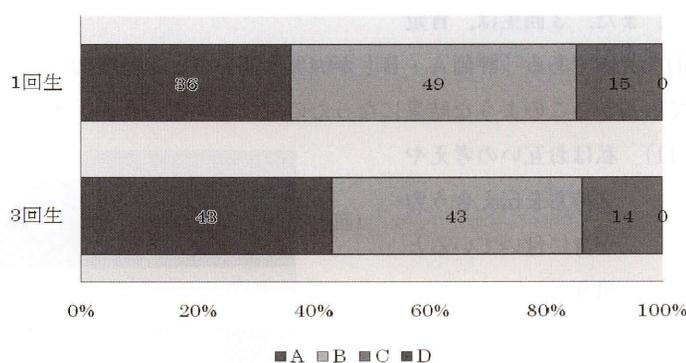
この質問項目では、否定的な評価である「評価C」が、1年生15%、3年生16%と差がなく（1%）、肯定的評価である「評価



A・B」が、1年生85%、3年生84%と、ともに高い割合になっている。

(8) 私は道徳的価値（人間としてのよさ）を自分なりに発展させようとしている。

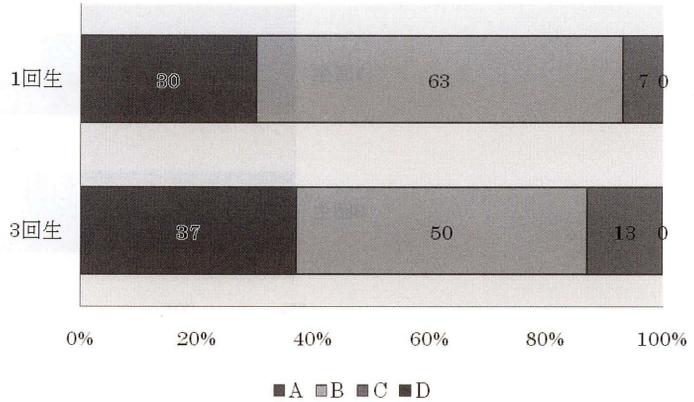
この質問項目では、否定的な評価である「評価C」が、1年生15%、3年生14%と差がなく（1%）、肯定的評価である「評価



A・B」が、1年生85%、3年生86%と、ともに高い割合になっている。

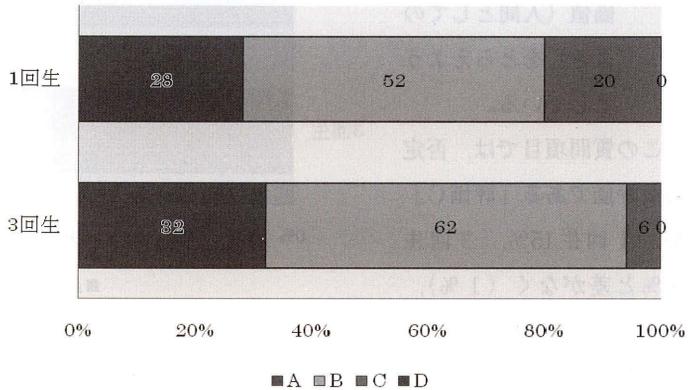
(9) 私は自分の感じ方・考え方を仲間のそれと対比しながら、自分の考えを明確にしようとしている（対話—「相互作用」を大切にしている）。

この質問項目では、否定的な評価である「評価C」が、1回生7%、3回生13%と少し乖離(6%)していることが特徴的である。3回生の肯定率が少し低いのは、自己を深く見つめ、考え過ぎてしまったためかもしれない。また、3回生のAの割合は逆に7%高いことから、意識の高い学生は3回生に多いように考えられる。



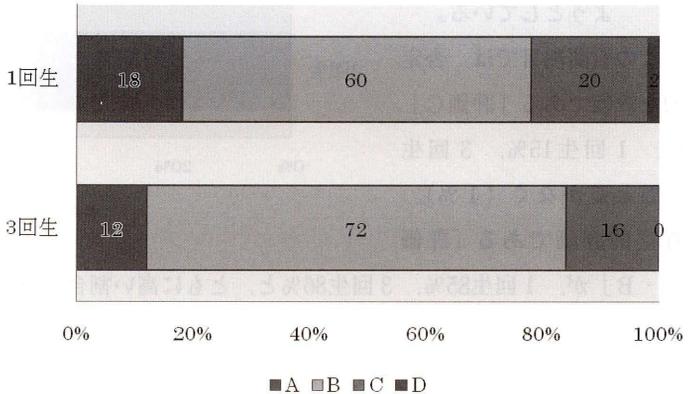
(10) 私は人間として生きるプライドや人間の尊厳性を自覚している。

この質問項目では、否定的な評価である「評価C」が、1回生20%、3回生6%と大きく乖離(14%)していることが特徴的である。また、3回生は、肯定的な評価である「評価A・B」が94%と高いことも特徴的である。3回生は、精神的に成長しているからこのような結果になったのではないだろうか。



(11) 私はお互いの考えや気持ちを伝え合う力が身に付いていると思う。

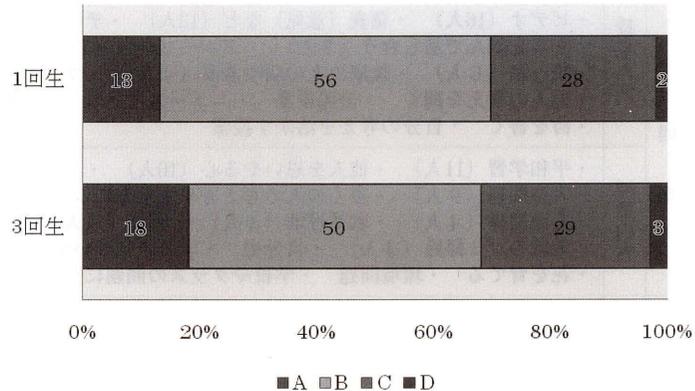
この質問項目では、否定的な評価である「評価C・D」の合計が、1回生22%、3回生16%と少し乖離(6%)していることが



特徴的である。ほとんど差はないが、肯定的な評価である「評価A・B」が、3回生84%と、1回生78%に比べ、多少高いのは、精神的に成長しているからこのような結果になったのではないだろうか。

- (12) 私は生活上における問題を言葉で解決する力が身に付いていると思う。

この質問項目では、否定的な評価である「評価C・D」の合計が、1回生30%、3回生32%と差がないが(2%)、3回生の「評価C・D」の割合が若干高い。



2 自由記述の結果とその考察

道徳教育に関する自由記述A・Bについて、書かれた内容についてみていきたい。

(1) 質問項目Aの学年別回答類型とその考察

質問項目Aの回答については、次の表の「授業方法」と「授業内容」の2つに分類した。

下記の表3をみると、次の2点が特徴的である。1点目は、1回生の方が、「グループ学習」、「体験学習」、「ゲーム」など多様な授業方法をとっていること。2点目は、1回生の方が、「職業理解」、「自分史」、「環境問題」など多様な授業内容であること。このことから、1回生の方が充実した道徳の授業を受けてきているのではないかと考えられる。

(2) 質問項目Bの学年別回答類型とその考察

質問項目Bの回答については、次の表に示すように「肯定的回答」と「否定的回答」の2つに分類した。

下記の表4をみると、「ためにならなかった」という否定的な回答が1回生では「14人(7%)」、3回生では「11人(14%)」と倍の割合になっている。3回生の方が、否定的回答の割合が高いことが特徴的である。また、肯定的回答の種類も1回生の方が多い。

3回生は、充実した道徳の授業を受けた割合が低いのではないかと考えられる。

表3 質問項目Aの学年別回答類型

質問項目A：これまで、小学校や中学校でどのような道德教育（とりわけ道德授業）を受けてきましたか。	
1 回	授業方法
	授業内容
3 回	授業方法
	授業内容

表4 質問項目Bの学年別回答類型

質問項目B：Aのことを、自分の生き方との関わりで、どのように受け止め（評価し）ていますか。	
1 回	肯定的回答
	否定的回答
3 回	肯定的回答
	否定的回答

V アンケート全体に係る考察

アンケート全体をみると、記号選択の回答では、全てにおいて肯定的評価が否定的評価に勝っていることが分かる。このことから、小学校・中学校・高等学校における道徳教育は、学生に肯定的に受け取られていると考えられる。

学年別にみると、1回生の回答の方が、肯定的評価が高いことがわかる。特に、記号選択の回答の「高等学校までの道徳教育」について質問した、「高等学校までの道徳教育は、自分の生き方のためになった。」と「私は道徳の時間等で体験を生かした学習をすることが楽しく、充実していたと思っている。」については、顕著な差が見られる。しかし、記号選択の回答の「道徳的価値について」質問した項目に関しては、「私は人間として生きるプライドや人間の尊厳性を自覚している。」以外は、大きな差はみられなかった。

自由記述に関しては、質問Bにみられるように、肯定的評価が否定的評価に勝っていることが分かる。このことから、小学校・中学校・高等学校における道徳教育は、学生に肯定的に受け取られていると考えられる。

学年別にみると、ここでも1回生の回答の方が、肯定的評価が高いことがわかる。

1回生と3回生では、2年間の違いしかないのだが、アンケート結果全体から、1回生の方がより充実した道徳教育を受けることができたのではないかと推察される。

このことは、平成10年度から始まった広島県教育委員会に対する文部省の是正指導が、道徳教育に関して大きな影響を及ぼした結果ではなかろうか。

VI おわりに

広島県教育委員会が明らかにした、「是正指導に係る実施状況調査及び校長ヒアリングを通しての成果と課題」(平成14年8月19日)⁹⁾では、残された課題である「道徳の時間の指導内容」に関して、「成果と課題」では、「道徳の時間の年間授業時数及び全内容項目についての指導は、概ね達成されている。」とし、「課題に対する取組み」では、「道徳教育を中心とした学校体制づくりや教職員の指導力向上などをねらいとした道徳教育実践研究指定校15校の研究成果の波及や『心のノート』の積極的な活用により、指導内容を一層充実する。」としている。

その後、平成16年6月～9月にかけて実施された「是正指導の内実化及び学校経営改革の進捗状況にかかわる実態調査」¹⁰⁾では、「平成10年度当初の是正指導項目についてはほぼ完了」したとされている。

このことは、アンケート結果にも反映されていると考えられる。

今後の課題としては、継続して同様のアンケートを実施し、年齢による道德教育に関する意識の違いを明確にすることで、広島県教育委員会に対する文部省の是正指導が、道德教育に関して及ぼした影響を明らかにしたい。また、実際の道德教育の内容がどのように変化したのかを、実証的にみていき、そのことが学生にどのような意識の変化をもたらしたのかを明らかにしたい。

【引用文献】

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」2008年，p. 21
- 2) 前掲書1)，p. 29
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』平成20年8月，東洋館出版，pp. 3-7
- 4) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道德編』平成20年8月，日本文教出版，pp. 3-7
- 5) 広島県教育委員会『平成22年度 広島県教育資料』平成22年3月，p. 58
- 6) 前掲書 5)，p. 58
- 7) 前掲書 5)，p. 59
- 8) 前掲書 5)，p. 25
- 9) 前掲書 5)，p. 60
- 10) 広島県教育委員会『平成17年度 広島県教育資料』平成17年3月，p. 62